

様式2

令和3年度 自己評価表（鳥取県立米子工業高等学校）

【校訓】 自律・創造・協働

最終評価

ミッション	地域社会・産業界に貢献する人材の育成	今年度の学校重点目標	1 工業高校生らしいエチケット・マナーと心身の健全な育成 2 キャリア教育の充実と学力向上による進路実現 3 新しい時代を創造し活躍できる工業人の育成 4 開かれた学校づくり 5 学校業務改善の取組
目指す生徒像	自主自律の精神を持ち、 他者を思いやる創造力豊かな工業人		

年 度 当 初						評 価 結 果		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 工業高校生らしいエチケット・マナーと心身の健全な育成	(1) 生徒指導の徹底	・頭髮服装指導で指導を受ける生徒が減少。 ・学校敷地内でのスマホの取り扱いに関してはルールを守れていない生徒が見られる。	・就職試験をすぐにもでも受けられる身なりや生活態度で日常生活を過ごしている。	・生徒「自分のエチケット・マナーが向上した」 保護者「本校はルールやマナーを守らせる指導が適切に行われている」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・安全にチームで作業を行う工業人として社会に受け入れていただくことを意識させ、規律とマナーを自覚して向上させる。 ・職員が率先して社会的ルールを尊重する姿勢を示すことで、生徒にモデルを示す。 ・学校の指導方針を保護者に示し、保護者と連携して指導に当たる。	・「自分のエチケット・マナーが良い」と振り返る生徒は95.3%、「本校は、ルール・マナーを守らせる指導が適切に行われている」と感じている保護者は94.6%であった。 ・定期的に服装頭髮指導を行い、教職員間で連携しながら粘り強く指導を行うことができた。 ・スマートフォンの使用方法を含め、校則を見直している。	A	・生徒や教職員の意見を反映させながら新たな校則を構築し、周知徹底する。 ・職員から積極的に挨拶する、時間や規律を遵守するなど、より一層生徒にロールモデルを示す。
	(2) 時間や規律を守る生徒の育成	・就寝時間遅くなり、遅刻をする生徒が一部に見られる。 ・生徒の挨拶は概ねできているが、職員室等に入室する際の挨拶では不十分な生徒がいる。	・就寝時間を意識した生活を実践し、遅刻なく元気に一日の学校生活を始められる。 ・自ら挨拶ができ、場面に応じた言葉遣いができるなど、マナーがさらに向上している。	・2学期までの遅刻合計1回以下の生徒が80%以上ならばA。 ・教職員「生徒の挨拶は良い」「生徒の言葉遣いは良い」等アンケートの集約結果が全体の80%以上ならばA。	・届けなく遅刻、早退、欠席した生徒の保護者へ連絡を取り、家庭での基本的生活習慣の改善について協力をお願いする。また、生徒が抱える現状を職員が丁寧に関き取り改善のための適切なアドバイスを行う。 ・様々な機会を捉えて挨拶の習慣化を図る。 ・職員が率先して規律を守り、生徒にモデルを示す。	・2学期末までの遅刻合計回数が1回以下の生徒は75%であった(やむを得ない事情含む)。 ・1学期と比べ2学期は遅刻者が増加した。 ・教職員アンケートの「生徒の挨拶・マナー等」に関する質問について、肯定的な回答が約88.5%であった。 ・自転車使用時のヘルメット着用について、重要性を周知することができた。	B	・届けなく遅刻した生徒については、保護者連絡を徹底し、保護者の協力を得ながら再発防止に努める。 ・ヘルメット使用率の向上に向けて、保護者・関係機関と引き続き連携する。 ・言葉遣い、挨拶など必要に応じてその都度指導する。
	(3) 部活動と生徒会活動の活性化	・コロナウイルスの影響による制約はあるが、部活動への加入率は高く活発に活動している。	・多くの生徒が部活動や生徒会活動に参加し、満足した部活動を行っている。 ・部活動や生徒会活動をおして、競技力のみならず、人間関係やチャレンジ精神をより高めている。	・部活動または生徒会への加入率が80%以上であり、さらに活動をとおしての満足度が80%以上ならばA。 ・保護者「本校は部活動が活発である」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・部紹介や勧誘ポスターの掲示を行い、部活動加入率の向上を図る。 ・部活動での大会成果や活動をHPや校内掲示板へ掲載し、活動の魅力を伝えることで部活動への加入を呼びかける。	・コロナ禍においても部活動の加入率は84%であった。 ・「本校は、部活動が活発である」と回答した保護者は90.5%であった。 ・コロナ禍においても実施可能な生徒会行事は行うことができた。	A	・年度途中で退部した生徒にも、本人の意向を尊重しながら、他の部活への入部を呼びかける。 ・生徒会執行部を中心に、生徒会行事の充実を図る。
2 キャリア教育の充実と学力向上による進路実現	(1) 生徒全員の希望進路の実現	・就職希望者については100%の就職率を達成している。 ・進学希望者については国公立大学へも合格した。	・就職希望者については就職率100%。 ・進学希望者については国公立大学へも合格。 ・多くの生徒が第1希望の進路先に内定または合格する。	・生徒「自分は進路指導を受けて、就職先・進学先を決める際に役立った」「進路状況や進路に必要な知識・技能に係わる情報を、LHRや進路講演会などを通じて適宜提供する。求人票や指定校一覧を生徒各自のICT機器で閲覧できるようにし、家庭で進路決定の資料として活用していただく。」 保護者「本校の進路指導等は就職先・進学先を決める際に役立った」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・生徒が主体的に進路選択を行えるよう、キャリアパスポートを活用する。 ・進路状況や進路に必要な知識・技能に係わる情報を、LHRや進路講演会などを通じて適宜提供する。 ・求人票や指定校一覧を生徒各自のICT機器で閲覧できるようにし、家庭で進路決定の資料として活用していただく。 ・面接指導、個別指導を実施し、効果的組織的な進路指導を行う。 ・大学進学希望者、公務員受験希望者への計画的な指導対策を実施する。 ・コロナ禍における企業情報の提供方法を検討する。	・生徒アンケートで「自分は進路指導を受けて、就職先・進学先を決める際に役立った」との回答は93.4%、「進路実現に向けて計画的に取り組むことができた」との回答は89.0%であった。 ・保護者アンケートの「本校の進路指導等は就職先・進学先を決める際に役立った」との回答は87.9%であった。 ・学校全体で面接指導や個別指導を行い、就職希望者については内定率100%、国公立進学者は5名となった。 ・キャリアパスポートを活用することで、生徒の進路意識が向上している。	A	・大学進学希望者、公務員希望者に対し計画的な指導を行う。 ・保護者との連携を密にし、生徒の進路実現を図る。 ・コロナ禍においてリモートで行われる企業説明会、応募前職場見学、就職試験、大学等の入試への対応を適切に行う。
	(2) インターンシップ及び県内外の企業研修の充実	・コロナウイルス感染症の影響で多くの企業見学、インターンシップは一部でしか実施できない。	・地元企業見学では、実際の現場を見学することにより、生徒の専門科目に対する興味関心と日々の学習意欲が高まる。 ・2学年全員が行うインターンシップでは、企業現場での実習を通して、専門的な知識や技術・技能に触れ、生徒の進路に対する意識が高まる。 ・県外企業研修旅行では、県外の大手企業を見学することにより、生徒の職業観が育ち、所属学科や専門科目に対する興味が高まる。	・生徒「インターンシップは勉強になったし、充実していた」「県外企業研修旅行は勉強になったし、充実していた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・保護者「地元企業見学、県外企業研修旅行、インターンシップ、課題研究等が充実している」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・インターンシップでの受入企業を確保し、実際の現場で作業をさせることにより、仕事の大切さ・意義・困難さを体験させる。また産業界での知識や技術・技能を学ばせることによって、日々の学習への意欲や積極性を喚起する。 ・企業を見学することにより、産業全般に対する認識を深めさせ、将来の進路選択に一層明確な目標を立てさせるとともに、所属学科や専門科目に対する興味関心を喚起する。 ・コロナウイルス感染症の影響で直接現場を見学することができない可能性があるため、インターネットやテレビのコンテンツを活用した代替方法を検討しておく。	・生徒アンケートの「インターンシップは勉強になったし、充実していた」との回答は88.5%であった。 ・保護者アンケートの「地元企業見学、県外企業研修旅行、インターンシップ、課題研究等が充実している」との回答は85.8%であった。 ・コロナ禍のため県外企業研修旅行(3年6月、2年9月)は中止とした。 ・インターンシップは、実施できなかった企業もあったがすべての科で実施することができ、当初の目標を達成することができた。	A	・県外企業研修旅行が実施できなかった場合の県内企業見学を積極的に検討する。 ・生徒の企業に対する興味関心を高めるために、インターンシップにおける生徒による受け入れ企業の新規開拓も検討する。
	(3) 基礎学力の向上と授業改革	・生徒にはSPI小テスト、基礎力診断適性検査等を活用し、必要とされる基礎学力のレベルを認識させている。 ・職員はICTを活用した授業方法や今後求められる教育のあり方を研修している。	・SPI小テスト・基礎力診断適性検査等を活用し、社会人として求められる基礎学力のレベルを認識し、就職試験等に対応できる力をつけている。 ・生徒はお互いに協力し合い、ICTを活用しながら主体的に学んでいる。	・生徒「SPI小テストに一生懸命取り組んだ」等集約結果が80%以上ならばA。 ・生徒「自分は、授業(座学)が理解できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・SPI小テストの低得点者などに対して、早期に学び直しの必要な内容をフィードバックし、学び方を指導する。 ・オンラインコンテンツを活用し、他校の視察や校内の授業公開などで研鑽を積み、生徒の意欲を引き出す授業を展開する。	・生徒アンケートの「SPI小テストに一生懸命取り組んだ」との回答は61.4%、「自分は、授業(座学)が理解できた」との回答は83.5%であった。 ・校内ICT研修を4回実施した。 ・外部講師を招いての授業力向上研修会は中止とした。 ・オンラインコンテンツを活用しての研鑽は一部の教職員に限られている。	B	・SPI小テストの実施意義について、年度当初に文書を配布し生徒に説明する。 ・オンラインコンテンツを活用し、生徒の学習意欲を高める授業づくりを行う。 ・Chromebook導入に備え、教職員間で連携しながらICTを活用した授業を積極的に行う。

年 度 当 初						評 価 結 果		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	評価基準	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 新しい時代を創造し活躍できる工業人の育成	(1)ものづくり人材育成事業の充実・発展	・コロナウイルス感染症の影響で多くのコンテスト・大会が中止された。	・高校生ものづくりコンテストなどへの参加を奨励し、上位へ入賞する。 ・課題研究等の活動を支援することで、生徒が高度な技術へ積極的に取り組み、その成果を各種大会で発揮する。	生徒「自分は実習を通じて、技術・技能が身についた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA ・保護者「本校は将来にわたって役立つ教育が行われている。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・専門の授業において、ものづくりの楽しさと意義を生徒に伝え、生徒がコンテストにチャレンジする意欲を高める。 ・部活動とのバランスに配慮して取組ができるよう検討する。 ・コロナウイルス感染症の影響を受けにくいコンテスト・大会を調べ、新しい目標としての可能性を検討する。	・生徒アンケートの「自分は実習を通じて、技術・技能が身についた」との回答は90.7%、保護者アンケートの「本校は将来にわたって役立つ教育が行われている」との回答は96.8%であった。 ・ものづくりコンテストでは旋盤作業部門で中国大会に出場した。 ・家庭科では未来型問題解決学習に取り組み、優秀作品の図書館展示を行った。 ・全国高等学校ロボット競技大会では奨励賞を受賞した。	A	・技術取得、技術向上のために継続的に練習を行う。 ・参加可能なコンテスト(作品送付・オンライン)へ積極的に参加する。
	(2)専門的資格取得の推進と「課題研究」の充実	・令和2年度ジュニアマイスター取得者実人数は39名。 ・課題研究内容に新しい取組が見られ、各科課題研究発表会及び全体発表会が実施されている。	・ジュニアマイスター取得者が増加する。 ・各科の課題研究で新しい研究内容に取組むなど研究内容が充実し、課題研究発表会で分かりやすい発表ができています。	・卒業生の2割以上の生徒がジュニアマイスターを取得すればA。 ・保護者「課題研究が充実している」及び、生徒「課題研究でプレゼンテーション力が身についた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・資格取得を推進し、それぞれの生徒に必要な資格・検定の選択と受検までの計画の立案を支援する。 ・資格取得に向け、補習や社会人講師によるサポートを行う。 ・課題研究のテーマや研究内容を精選し、生徒が研究内容を理解し発展させながら生徒主体で取組むように指導方法を工夫する。	・生徒アンケートの「課題研究の取り組みを通して、専門的な学びが身についた」との回答は92.3%、保護者アンケートの「課題研究が充実している」との回答(3年生のみ)は84.7%であった。 ・各科の課題研究の取り組みをHPIに掲載した。 ・ジュニアマイスターは66名[ゴールド13名(特別表彰2名(うち1名は理事長賞も受賞)含む)、シルバー18名、ブロンズ35名]が取得した(卒業生の34.5%)。	A	・各科の課題研究の取り組みのHP掲載は、時期を決め掲載する。 ・資格取得に向け必要に応じて補習を行い、生徒が意欲的かつ積極的に取り組むよう指導する。
	(3)5S(整理 整頓 清掃 清潔 しつけ)と安全教育の徹底	・実習時に5Sと安全教育を連動させて指導している。	・5Sや安全を意識した行動ができる。 ・5Sや安全への意識を日常生活に活かしている。	・生徒「5Sの習慣が身についた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。 ・教職員「安全教育について概ね徹底できた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・各授業・実習の中で具体的な5Sの取り組みを明示し、実践することで身につけさせる。 ・5Sの考え方を日常生活や部活動などに転用できるよう考えさせ、安全教育を定着させる。	・生徒アンケートの「5Sの習慣が身についた」との回答は92.4%、教職員アンケートの「安全教育について概ね徹底できた」との回答は97.2%であった。 ・校内トイレに掃除手順を掲示し作業を分かり易くした。	A	・整理整頓を促す啓発ポスターを掲示し、5Sの意識付けを行う。 ・授業、実習、課題研究を通して声かけを行い、5Sの習慣を身につけさせる。
4 開かれた学校づくり	(1)地域社会への貢献	・地域貢献活動を各科が積極的に行っている。	・地域の課題を解決する取組や、身近な人の困りごとの解決を支援する活動により、ものづくりの意義を学び、自己有用感を感じている。	・教職員「ものづくりに関して、近隣地域と連携して概ね成果が上がった」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・地域や身近な人の課題に目を向けさせ、自分たちの学びで関われることを考えさせる。 ・地域や身近な人に具体的な製作物やシステムを提供する生徒の活動にアドバイスと支援を行う。	・教職員アンケートの「ものづくりに関して、近隣地域と連携することは良い取組である」との回答は97.2%であった。 ・課題研究において地域貢献活動(ゴミストッカー製作、ベンチの製作、駐車場ライン引きなど)を行った。 ・「はるかのひまわり絆プロジェクト」の活動に取り組んだ。	A	・地域の公民館と連携しながら地域の課題を把握し、貢献活動を積極的に行う。 ・生徒が主体的に地域貢献活動を行えるよう支援する。
	(2)中学校などの異校種との交流・連携	・小中学生に学校公開や体験学習を行い、ものづくりについての関心が高まっている。	・様々な異校種連携をととして、小中学校や地域社会の工業教育についての関心が高まっている。 ・出前授業等を行うことによって、小中学生に本校でのものづくり教育への関心が高まっている。	・教職員「中体験・学校公開等を通して、中学校や保護者へ本校の内容を概ね伝えることができた。」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・中学生体験学習や学校説明会で、ものづくり教育の意義を理解し、関心を高めていただくよう内容をブラッシュアップする。 ・コロナウイルス感染症による交流制限を想定し、オンラインによる連携も検討しておく。	・教職員アンケートの「学校見学や米工MAKERSを通して、中学校や保護者へ本校の内容を概ね伝えることができた」との回答は80.8%であった。 ・啓成小学校と連携し避難訓練を実施した。	A	・出前授業などを通して小学校・中学校と連携しながら本校の魅力を伝える。 ・ICTを活用した新たな交流方法を検討する。
	(3)本校の教育活動の発信	・学校から積極的な情報発信を行い、学校理解を進めている。	・ホームページ、まちこみメール、マスメディア等を通じ、学校情報の発信をタイムリーに行う。	・保護者「家庭への連絡がきめ細かく行われた」等アンケート集約結果が全体の80%以上ならばA。	・ホームページの内容を定期的に更新するなど、積極的な情報発信に努める。 ・スマートホンからのアクセスを意識した情報発信の方法を検討する。 ・メール配信をこまめに行うことで、保護者へ情報を迅速に伝える。	・保護者アンケートの「家庭への配布物、電話連絡、学校HP、まちこみメール等を通して、家庭へ連絡がきめ細かく行われた」との回答は94.4%、「本校のHPをよく確認している」との回答は62.6%であった。 ・米工MAKERSで学校の取り組みなどを定期的に発信することができた。	B	・学校HPで積極的に情報発信を行う。 ・米工MAKERSはで学校の取り組みのみならず、生徒の何気ない成長を取り上げ、魅力ある発信につなげる。
5 学校業務改善の取組	(1)学校業務の効率化推進	・令和2年度は時間が業務の目標削減時間を達成した。	・必要なものが必要なときにすぐ取り出せる状態にある。 ・業務上の様々な資料について、再利用、共有できる状況にあり、次に業務に当たる職員が円滑に取り組み、業務に当たる時間が削減されている。	・教職員「ものの定位置を決め、実践できた」職員が80%以上ならA。	・ものを置く場所を決め、定位置に置くことを励行する。 ・各自が資料の整理方法についてルールを決め実践する。 ・担当した業務において、気づいた改善点はすぐに反映させ、資料の修正、申し送り事項を作成する。	・教職員アンケートの「ものの定位置を決め、業務を効率よく行った」との回答は84.6%であった。 ・職員会議資料を電子データで事前提示し、印刷時間等削減した。 ・資料室などの整理を行った。	B	・業務の効率化に向け、職員室などの整理・整頓に努める。 ・新型コロナウイルス感染症への対応による業務拡大が、特定の教職員の負担にならないよう配慮する。
	(2)長時間勤務者の解消	・部活動計画を立て長時間の勤務にならないよう取り組んでいる。	・部活動は平日3時間以内、休日は4時間以内を実践。 ・職員、生徒共に家族や地域での活動時間が確保できている。	・部活動の指導を主たる理由として時間外業務月45時間以内、年間合計360時間以内ならばA。	・部活動計画を立て、長時間勤務を防止する。 ・部活動指導員との指導分担により、時間外勤務を削減。	・12月末までに時間外業務が1ヶ月45時間を超えた教職員は10名であった(2回以上はそのうち2名)。 ・12月末までに時間外業務が月平均30時間を超える教職員は9名であった。	B	・教職員に対し「業務に関するアンケート」を実施する。 ・適切な部活動計画を作成し、実施する。

評価基準	※評価基準に複数の目標を設定している場合、全ての目標を達成してA評価とする
アンケート結果によるもの (部活動関係も準ずる)	A 80%以上 B 70%以上～80%未満 C 60%以上～70%未満 D 50%以上～60%未満 E 50%未満